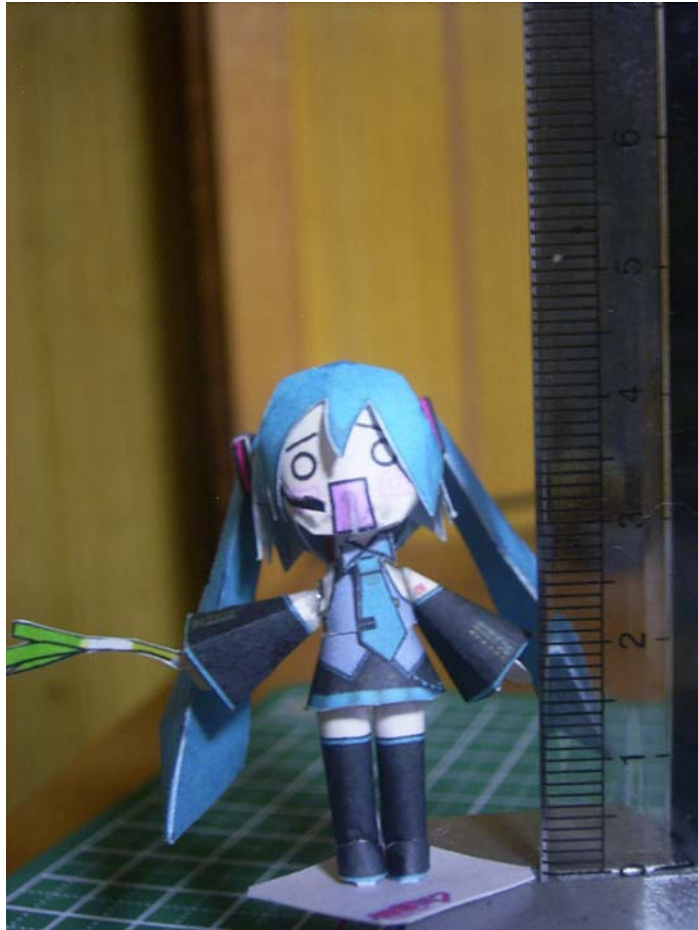


44mmはちゆねの憂鬱

いかにして計画は失敗したのか

早坂千尋

44mmはちゅねとは何か



- 立体
- 全高44mm
(実は43mm?)
- 動力を内蔵
- 電源は外付け
- 高速動作

実は失敗作

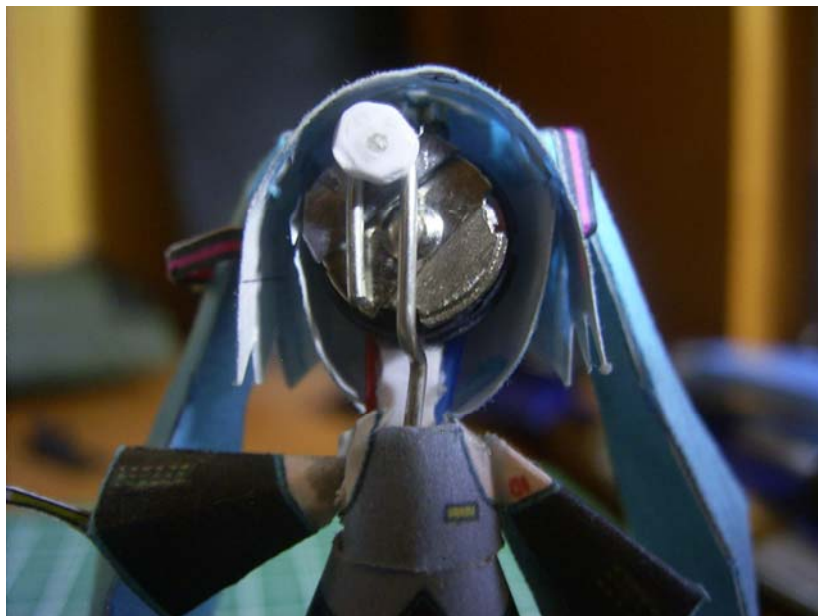
- 当初は自立型を志向
 - 動力源の内蔵に失敗
- 安定動作の欠如
 - 通称「死にかけの蟬」
- 実は当初計画では40mmのはず
 - 設計の欠如・成り行き任せで失敗

当初は自立型を志向



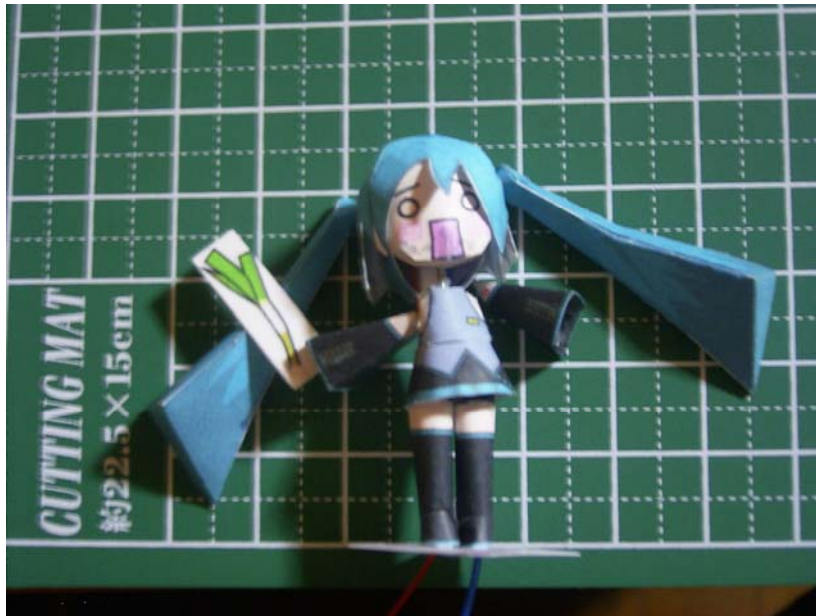
- 棒形のリチウム電池を使用予定→起動電流を確保できない
- 2本並列でもダメ
- 無理矢理電圧上げたらモーター内部が死んだ
- その後、ボタン型の酸化銀電池ならなんとか動く事を確認

安定動作の欠如



- 動作支点がいかげんなので、あちこちで引っかかりが発生する
- ロッドを現物合わせで作ったのでいろいろダメ
- 動画公開後にいろいろいじったら、さらにダメに

当初計画では40mm



- 首の隙間に注目
 - 腕の動作面とモータの回転面の不一致から、ロッドの構造が複雑化
そのために動作範囲が増大し、全長が増加
 - ネクタイで誤魔化す

金属フレームの採用失敗



- 首に動作ロッドを通すため、頭と胴体の接合と剛性確保のために制作
→厚さ方向の設計をしていなかったなので使えず

最後に

- 考え無しでも一応完成する
- 動画編集で多少は誤魔化せる
- とにかく作ろう
- 次回予定、真40mmはちゅね貳号機
- モータ以外を動力とした30mm、20mm級への挑戦
- 無電源方式に活路を探す